



ウデナガカクレタコのイメージイラスト

ンヌジグワー捕り

泡瀬干潟は、サンゴ礁の礁湖に形成された干潟で、川の河口域で作られる干潟とは地質などが異なっている。干潟を歩いて、まず感じるのは、ゴツゴツした岩場が多いことである。この岩（転がっている石）は、もともとはサンゴであって、私たちが陸上でよく見かける琉球石灰岩と同じである。このような転石帯には、石の下や隙間を利用して、多くの生き物がすんでいる。

その干潟の生き物の一つに、タコの仲間がいる。地元の人たちは、「ンヌジグワー」と呼んでいるが、アナダコやイイダコなどの仲間と思われる。このタコは、主に甲殻類や貝の仲間を食べているので、この習性を利用して、昔から行われている原始的な漁法がある。イモガイの仲間の貝殻に穴をあけて、ひもを通して、その仕掛けをタコのいそうなゴツゴツした岩場（浅瀬）に投げ込み、引き寄せる。そうすると、タコが引っ掛かるという。この仕掛けのことを、一部の地域では、ンヌジベントウと呼んでいる。

このタコ捕り光景は、初秋の9月初め頃から、泡瀬干潟で見られる。